

1 親子の居場所事業

目指す拠点の姿	(参考)1期目振り返りの課題	自己評価(A~D)																																								
		法人	区																																							
①利用者を温かく迎え入れる雰囲気のある場になっている。	■拠点の周知方法及び活動内容の検討を行う。 ■発災時の避難方法及び対応に関する体制を整備する。 ■各種アンケート結果を活用し、新規事業化する。 ■リピーター獲得のための魅力あるプログラムを作る。	A	A																																							
②多様な世代、性別等の養育者と子どもが訪れる場になっている。		A	B																																							
③養育者と子どものニーズ把握の場になっている。		A	A																																							
④親(養育者)自身が親として育ち、また子どもが育つ場となっている。		A	A																																							
評価の理由(法人)																																										
(主なデータ)																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>年間利用者数</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総利用者数(1日平均)</td> <td>21,448人(88.6)</td> <td>21,591人(89.2人)</td> <td>20,507人(83.4人)</td> </tr> <tr> <td>父親</td> <td>452人</td> <td>703人</td> <td>702人</td> </tr> <tr> <td>祖父母</td> <td>174人</td> <td>122人</td> <td>185人</td> </tr> <tr> <td>プレママプレパパ</td> <td>20人</td> <td>7人</td> <td>49人</td> </tr> </tbody> </table>		年間利用者数	平成28年度	平成29年度	平成30年度	総利用者数(1日平均)	21,448人(88.6)	21,591人(89.2人)	20,507人(83.4人)	父親	452人	703人	702人	祖父母	174人	122人	185人	プレママプレパパ	20人	7人	49人	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="3">■新規登録者数</th> </tr> <tr> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>710人</td> <td>651人</td> <td>611人</td> </tr> </tbody> </table> <p>※平成30年度出生数約790人0歳児で約5割の方が登録 1歳4ヶ月までを合わせると6割の方が登録(下記の表参照)</p>		■新規登録者数			平成28年度	平成29年度	平成30年度	710人	651人	611人										
年間利用者数	平成28年度	平成29年度	平成30年度																																							
総利用者数(1日平均)	21,448人(88.6)	21,591人(89.2人)	20,507人(83.4人)																																							
父親	452人	703人	702人																																							
祖父母	174人	122人	185人																																							
プレママプレパパ	20人	7人	49人																																							
■新規登録者数																																										
平成28年度	平成29年度	平成30年度																																								
710人	651人	611人																																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>■平成30年度栄区地域子育て支援拠点にこりんく利用者アンケート</th> <th>はい</th> <th>いいえ</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>「一人でも来やすい雰囲気はありますか」</td> <td>97%</td> <td>3%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>「親として育つ場になっていますか」</td> <td>97%</td> <td>3%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>「子どもが育つ場になっていますか」</td> <td>99%</td> <td>1%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>「子どもの成長の見通しを持てるようになりましたか」</td> <td>72%</td> <td>26%</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>「プログラムに参加したことがありますか」</td> <td>89%</td> <td>11%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		■平成30年度栄区地域子育て支援拠点にこりんく利用者アンケート	はい	いいえ	その他	「一人でも来やすい雰囲気はありますか」	97%	3%		「親として育つ場になっていますか」	97%	3%		「子どもが育つ場になっていますか」	99%	1%		「子どもの成長の見通しを持てるようになりましたか」	72%	26%	2%	「プログラムに参加したことがありますか」	89%	11%		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="3">■平成30年度0才児新規登録者数(415人) ＜平成30年度0才児初登録時の主な月齢＞</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生後2か月</td> <td>75人</td> <td>18.0%</td> </tr> <tr> <td>生後3か月</td> <td>63人</td> <td>15.0%</td> </tr> <tr> <td>生後4か月</td> <td>67人</td> <td>16.0%</td> </tr> <tr> <td>生後5～12か月</td> <td>210人</td> <td>51%</td> </tr> </tbody> </table>		■平成30年度0才児新規登録者数(415人) ＜平成30年度0才児初登録時の主な月齢＞			生後2か月	75人	18.0%	生後3か月	63人	15.0%	生後4か月	67人	16.0%	生後5～12か月	210人	51%
■平成30年度栄区地域子育て支援拠点にこりんく利用者アンケート	はい	いいえ	その他																																							
「一人でも来やすい雰囲気はありますか」	97%	3%																																								
「親として育つ場になっていますか」	97%	3%																																								
「子どもが育つ場になっていますか」	99%	1%																																								
「子どもの成長の見通しを持てるようになりましたか」	72%	26%	2%																																							
「プログラムに参加したことがありますか」	89%	11%																																								
■平成30年度0才児新規登録者数(415人) ＜平成30年度0才児初登録時の主な月齢＞																																										
生後2か月	75人	18.0%																																								
生後3か月	63人	15.0%																																								
生後4か月	67人	16.0%																																								
生後5～12か月	210人	51%																																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="3">■平成30年度交流プログラム実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0ちゃんベビー集まれ</td> <td>11回</td> <td>331組662名</td> </tr> <tr> <td>1才チビちゃん集合</td> <td>10回</td> <td>217組438名</td> </tr> <tr> <td>集まれ！にこりんキッズ</td> <td>11回</td> <td>63組135名</td> </tr> </tbody> </table>		■平成30年度交流プログラム実績			0ちゃんベビー集まれ	11回	331組662名	1才チビちゃん集合	10回	217組438名	集まれ！にこりんキッズ	11回	63組135名	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="3">■平成30年度1才児新規登録者数(114人) ＜平成30年度1才児初登録時の主な月齢＞</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生後1才2か月</td> <td>15人</td> <td>13%</td> </tr> <tr> <td>生後1才3か月</td> <td>17人</td> <td>15%</td> </tr> <tr> <td>生後1才4か月</td> <td>8人</td> <td>7%</td> </tr> <tr> <td>生後1才5～12か月</td> <td>74人</td> <td>65%</td> </tr> </tbody> </table>		■平成30年度1才児新規登録者数(114人) ＜平成30年度1才児初登録時の主な月齢＞			生後1才2か月	15人	13%	生後1才3か月	17人	15%	生後1才4か月	8人	7%	生後1才5～12か月	74人	65%												
■平成30年度交流プログラム実績																																										
0ちゃんベビー集まれ	11回	331組662名																																								
1才チビちゃん集合	10回	217組438名																																								
集まれ！にこりんキッズ	11回	63組135名																																								
■平成30年度1才児新規登録者数(114人) ＜平成30年度1才児初登録時の主な月齢＞																																										
生後1才2か月	15人	13%																																								
生後1才3か月	17人	15%																																								
生後1才4か月	8人	7%																																								
生後1才5～12か月	74人	65%																																								
<p>1【利用者を温かく迎え入れる工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新規来館時に詳細な利用方法の説明を実施することによって保護者の不安解消に努めるとともに、来館の少ない利用者には重点的に声掛けを行うことにより孤立防止を図った。また、親子のふれあい遊びや、同年齢の親子交流を深める多彩なプログラム提供が、2回目以降の来館意欲の醸成につながったと思われる。 ※表 平成30年度交流プログラム実績参照 子どもの月齢及び居住地域が同じである利用者をスタッフが意図的に引き合わせることで、参加者の積極的な交流を促し育児不安の軽減につながった。 養育者自身の能力を引き出し、自己肯定感を育むことを目的に、養育者がボランティアとして主体的に活動する機会を多く設けた。養育者とともにひろばの活動を支えることで拠点の活性化に加えて、親としての成長を促すことができた。(読み聞かせボランティア、音楽ボランティア、製作ボランティア等) 災害時のマニュアル(地震、火災、不審者、水害)を拠点と区双方で確認し、年間を通して利用者参加型の訓練を実施し安全対策に努めた。 <p>2【多様な親子が安心して過ごせる場】</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもの障害の有無にかかわらず、安心して過ごせるよう地域療育センター指導の下にひろばの環境整備(クールダウンの居場所等)を行った。 また、昼食時食事場所の個別対応や、集団遊びが苦手な子を対象とした少人数での親子遊びを行った。 月曜日の休館日を利用し、発達が気になるお子さんを対象に拠点開放「にこりんくオープンデー」を実施。混雑した環境が苦手な利用に繋がりにくい、親子の居場所や当事者同士の交流の場になりつつある。(平成30年度から実施) 祖父母、妊娠期の方、外国籍の利用者に対しては、孤立しないようスタッフが意識的に寄り添い、きめ細かくサポートした。 父親参加型プログラム(パパたち集まれ、パパママ一緒にふれあい遊び、パパママ一緒に運動遊び、抱っこパパ隊)を充実させたことで、父親の利用者増につながった。※表年間利用者数参照 対象別の養育者の交流を行う中で当事者同士共通の悩みを共感し合い、孤立感を軽減することができた。(年齢別の交流プログラム、ふたごみつごの会、10代20代ママの会、アラフォーママの会) また、令和元年度から利用者発信プログラムとして親自身が主体となり企画段階から参画できるプログラムを設けている。 外国籍の方が利用しやすいようホームページの英語版(利用案内)の作成等の取り組みを行うとともに、受け入れ時の準備態勢を整えた。 																																										

様式1-1 地域子育て支援拠点事業評価シート

3【養育者のニーズの把握】

- ・拠点アンケート、プログラム実施後のアンケート等から、養育者の声を把握する機会を設け事業展開に活かした。
(父親向けプログラム・養育者主体の会の開催等)
- ・毎日のミーティングやスタッフ会議で養育者と子どもの現状から把握したニーズを共有・検討しプログラムの再構築を行った。
- ・区内の地域ケアプラザ(6か所)と連携して子育て講座を実施することで、各地区の子育て傾向やニーズの把握のみならず、新規利用者の獲得につながった。

4【親と子が共に育つ場】

- ・乳幼児期の良好な親子関係を築く一助となる親子のスキンシップの取り方について、家庭で再現可能な簡易なプログラムを提供し、結果として「子どもとの遊び方を知りたい」「関わり方の工夫やヒントを知りたい」というニーズに応えることができた。更には親がわが子の成長を改めて確認することにより親自身の成長をも促した。
- ・スタッフが遊びを促し、養育者が子どもの成長に目を向けられるように働きかけた。関わり方に悩んでいた養育者も徐々に我が子に向かい合えるようになった。
- ・子ども同士の関わりを尊重し、トラブルが起きた時、拠点スタッフが対応を示すことで養育者は第三者的な立場で子どもを観察し、成長を確認することができた。

様式1-1 地域子育て支援拠点事業評価シート

評価の理由(区)

- ・対象別交流会に関しては区の持つ様々なツールを活用して、窓口相談や家庭訪問、乳幼児健診、教室等で把握した対象者に安心して活用できるよう周知を行った。
- ・発災時のマニュアルの確認を拠点と区双方で行い、役割等の確認を行った。
- ・定例会においてプログラムの内容を確認し必要時助言を行った。

拠点事業としての成果と課題

(成果)

- ・養育者が主体的となったボランティア活動をサポートした結果、親としての成長を促すことができた。
- ・父親参加型プログラムをきっかけに、土曜日の父親の来館者数が増えたことにより、父親の育児参加や母親の育児負担及び不安の軽減につながったと考えている。
- ・災害マニュアルを拠点と区で確認し、安全対策に努めた。年間を通して防災訓練を行うことで、災害発生時の対応を具体的にシミュレーションすることができた。不審者対応訓練も実施し安全対策に努めた。平成30年度には、水害マニュアルを作成した。

(課題)

- ・妊娠期の方への認知が広がっていない。区と連携して母子健康手帳交付時のチラシや、近隣の産科医療機関への情報提供を引き続き行う。区との共催事業として両親教室での拠点周知は行なってきたが、令和元年度より両親教室終了後に、拠点見学計画し会を実施している。
- ・外国籍の方に対しては、情報が行き渡っているか、また来館しやすい状況にあるか関係機関・団体と連携し、把握を行い来館につながるような取組を検討していく。

振り返りの視点

- ア いつでも気軽に訪れることができ、安心して過ごせるような配慮、工夫をしているか。
- イ 居場所を訪れる様々な利用者(養育者、子ども、ボランティア等)の間に、交流が生まれるように工夫しているか。
- ウ 多様な養育者と子どもを受け入れる配慮や工夫をしているか。
- エ 養育者と子どものニーズを把握するための工夫をしているか。
- オ 把握されたニーズを区こども家庭支援課や関係機関と共有し、ニーズに応じて必要な支援や新たな事業、事業の見直しにつなげているか。
- カ 子どもの年齢・月齢に応じた遊びの環境が整備されているか。
- キ 子ども同士の関わりが尊重され、子どもが健やかに育つために必要なことに養育者が気付き、学ぶ機会を提供する場となっているか。
- ク 養育者同士が相談、情報交換し、課題解決し合う仕組みや仕掛けがあるか。

【作業用シート(様式1 7事業相互評価)】

相互振り返り作業での意見交換内容

別紙参照

有識者との意見交換内容・コメント

2 子育て相談事業

目指す拠点の姿	(参考)1期目振り返りの課題	自己評価 (A~D)
		区
①養育者とスタッフとの間に安心して相談できる信頼関係ができ、気軽に相談ができる場となっている。	■専門的な相談の検討を行い、充実を図る。 ■区と拠点で連携し、来館しなくなった利用者についても必要時に拠点で相談ができるようにする。 ※入園後は利用者が減少するため、その後の継続的な支援を地区担当保健師と拠点で連携し更に進めていく必要がある。	A
②相談を受け止め、内容に応じて、養育者を関係機関につなげている。また、必要に応じて継続したフォローができています。		A

評価の理由(法人)

(主なデータ)

■相談件数	
平成28年度	928件
平成29年度	1,099件
平成30年度	1,035件

※相談内容は発達・発育、生活習慣、自分自身が多くなっている。

■専門相談 助産師、理学療法士、保育・教育コンシェルジュ

■専門相談員を交えた講座
 管理栄養士(離乳食・幼児食)、歯科衛生士(歯の話)、保育士(イヤイヤ期の話)、食生活改善推進員(ヘルスメイトさんによる食育講座~3食バランスよく食べる~)、幼児安全法指導員(乳幼児救急救命法)、栄消防署職員(事故予防・救急予防講座)、栄警察署職員(事故予防の話・不審者対応について)、ひとり親サポート横浜(ひとり親ならではの子育てのコツ)

■研修
 ○個人情報守秘義務について ○こどもの遊び・環境設定の工夫について ○栄区児童虐待予防スキルアップ研修「養育者の支援」 ○横浜市・栄区における児童虐待の現状 ○横浜市子育ての現状と栄区で必要とされている支援について ○子ども青少年局支援関係者研修「相談対応の基本~エンパワメント~」「対人援助の基本と援助職のメンタルヘルス」
 ○子ども青少年局主催「地域で育てよう子どもの自己肯定感」 ○保育・教育コンシェルジュスキルアップ研修「電話相談・傾聴訓練」 ○子育て支援に関わるマインド&スキル「事例における学び合い」 ○子育て支援団体連絡会「傾聴について」「発達障害いいとこ探し」 ○地域療育センター、ソーシャルワーカーによる「拠点ひ

■平成30年度 栄区地域子育て支援拠点 にこりんくアンケート

「気軽に育児に関する相談ができる場所になっているか？」	はい 91%	いいえ 9%
「子育てに悩んだとき誰に相談していますか？」	配偶者 30%	友人 27%
	祖父母 20%	にこりんくスタッフ 14%

1-①【安心して来館し相談ができる場の提供】

- ・子どもの育ちに共感し、結果的に信頼関係の構築に資することができた。
- ・ひろばでの相談を入口として、他の子育て支援サービスの利用につなげることができた。
- ・子どもの遊びや環境設定の工夫に関して研修等を通して理解を深め、養育者に対して発達段階に応じたより具体的な助言を行った。その結果、養育者が子どもとのより良い関わり方を学びながら、日常の子育ての困りごとを解消し、楽しく子育てができるよう支援した。
- ・相談場所に関しては養育者が安心して相談に臨めるよう個室を確保し、相談者の利用希望に柔軟に対応することができた。
- ・個室での相談が可能となったことで、子どもが就園した後も養育者のみの相談に対応する事ができた。
- ・発育や発達に関する養育者の不安の解消は単発の相談では難しいことから、個別相談利用後の定期的な声かけを心がけることにより、相談を重ねることへの心理的負荷を取り除いた。
- ・個別相談後は通常のプログラムである遊びを通して、子どもの成長発達をスタッフで継続的に見守った。

1-②【相談内容に応じた専門的な相談日の工夫】

- ・専門職(助産師個別相談、助産師グループ相談、理学療法士、保育・教育コンシェルジュ)による相談日を定期的に設けることで養育者からの多様なニーズに対応した。
- ・同様の悩みを持つ養育者に対しては、グループカウンセリングの手法を取り入れたグループ相談を導入することで互いの悩みを共有しながら自らの力で問題解決ができるよう支援を行った。
- ・「子どもの健康」「発達」「離乳食」等の個別のテーマを設定し、同年齢の集団(0~2歳児)に対して専門職による講座及び相談日を設けた。
- ・専門職による相談については、ホームページによる発信を行うとともに昼と夕の集いを活用し、利用者全員に対してインフォメーションを行うことで利用者増につなげることができた。

1-③【利用者支援事業との連携】

- ・フロア相談後、必要に応じて迅速に利用者支援事業につなげ、細かな対応を行う等、多面的な支援につながった。

2【区や各関係機関との連携】

- ・相談内容に応じて適宜区へ引継ぎ、養育者の同意のもとに情報提供を行い、継続的な支援を実施した。
- ・発達や離乳食等の相談ニーズに対応するため、区に専門職の派遣を依頼した。(管理栄養士、歯科衛生士、保育士)

様式1-2 地域子育て支援拠点事業評価シート

評価の理由(区)

- ・発達に特性のある児も安心して来館・相談できるよう、地域療育センターとの調整の上、環境整備等に関する助言を行った。
- ・専門的なプログラムの開催にあたり、講師の相談や調整を行った。

拠点事業としての成果と課題

(成果)

- ・拠点利用者にとって安心して来館し相談できる場になっているか区との定例会を通じて助言を受けるとともに情報共有を行った。
- ・日常的な相談の過程で専門職や多機関による支援が必要と判断した場合は、利用者支援事業と連携し適宜区等の関係機関への利用案内を促した。利用案内後も、拠点利用時に意識的に声掛けをし、切れ目のない支援体制を構築した。

(課題)

- ・相談内容の複雑化・多様化が顕著となっており、全てのスタッフが適切な対応を取れるよう、相談技術の向上が喫緊の課題と思われる。(内部研修年間10回実施・外部研修の活用)

振り返りの視点

- ア 養育者が相談しやすい仕組みづくりや工夫をしているか。
- イ どのような相談に対しても傾聴し、相手に寄り添う相談対応を行っているか。
- ウ 相談内容の傾向を把握し、振り返りを行い、望ましい対応の検討や共有に努めているか。
- エ 区子ども家庭支援課との連携のもと、各種専門機関の役割を把握し、養育者への効果的な支援を行うための連携、連絡体制を作っているか。
- オ 専門的対応が必要と考えられる相談について、区子ども家庭支援課と相談しながら適切に対応しているか。
- カ 関係機関とつながった後にも、役割分担に応じて、継続的な関わりを持っているか。

【作業用シート(様式1 7事業相互評価)】

相互振り返り作業での意見交換内容

別紙参照

有識者との意見交換内容・コメント

3 情報収集・提供事業

目指す拠点の姿	(参考)1期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①区内の子育てや子育て支援に関する情報が集約され、養育者や担い手に向けて提供されている。	■妊娠期の夫婦への拠点周知の工夫をする。 ■地域ケアプラザ等の関係機関と連携し、各地区の子育て情報が拠点に集約される仕組みを作り、利用者への情報発信の充実に向け協働する。 ■利用者の掲示板掲載の基準作りに向けた検討を行う。	A	A
②子育てや子育て支援に関する情報の集約・提供の拠点であることが、区民に認知されている。		B	B
③拠点の情報収集、発信の仕組みに、養育者や担い手が積極的に関わっている。		A	A

評価の理由(法人)

(主なデータ)

発行物

- ・「にこりんく通信」毎月1,500部を市内区内の市民利用施設に発送
- ・「にこにこマップ」改訂版 2,000冊(平成30年度)
- ・「ハマハグおでかけマップ」1,000枚

WEB

- ・ホームページリニューアル(平成27年度)⇒子育てサポートシステム、利用者支援事業のページ開設
- ・サークルサロンページ開設(平成28年度)
- ・パパページ開設(平成28年度)
- ・ホームページリニューアル(令和元年6月)⇒スマートフォン対応

紙・電波

- ・広報よこはま栄区版:毎月イベント情報掲載・横浜市広報番組「ぎゅっとヨコハマ!」
- ・町内会掲示板・回覧板・地域情報紙「タウンニュース」・J-COM・横浜ダディ

■平成30年度栄区地域子育て支援拠点にこりんく利用者アンケート	はい	いいえ	知らなかった
「子育て情報コーナーを活用していますか?」	73%	27%	
「にこりんくのホームページをご覧になった事がありますか?」	86%	7%	7%

1【ネットワークや様々な媒体と連携した情報の収集と提供】

- ・ホームページ、にこりんく通信、広報よこはま栄区版等、様々な媒体を活用し、拠点情報を広く発信した。
- ・子育て支援団体連絡会の事務局として、連絡会を定期的に開催し、区内50団体と情報交換を行い各団体のタイムリーな情報を収集し、提供をした。その結果、各団体との日常的な情報収集・提供のやり取りにつながった。平成29年度は団体同士がそれぞれの利用者をつなぎ、特技を活かして活動を支え合えるよう「子育てつながるマップ」を作成し顔の見える関係性ができた。
- ・幼稚園・保育園の園長会に参加し、拠点周知、情報提供の依頼を行ったことで、養育者からのニーズが多い未就園児のイベントや園庭開放等の情報が得られ提供できるようになった。

2【養育者や担い手に情報の集約・提供の拠点である事を周知】

- ・区と連携し、区で実施している母子保健事業(地域育児教室等)で拠点の周知を行った。地域に出向くことで、拠点を利用したことのない方にも周知することができた。
- ・拠点来館者には掲示物と合わせ、昼と夕の集いで地域の子育て情報を周知した。
- ・拠点に来づらいう地域の区民にも伝わるようホームページや広報よこはま栄区版等、様々な媒体を利用して情報を発信した。
- ・区や地域ケアプラザ、子育て支援団体連絡会等、様々な団体から集まった情報を集約し提供する事で、拠点機能の認知へとつながった。
- ・区と共に、区の子育てや、地域資源にまつわる情報を集約した「にこにこマップ」を作成した。(毎年更新)

3【養育者や担い手が拠点の情報収集、発信に積極的に関わる事ができる仕組みづくり】

- ・ホームページをリニューアルし、より見やすく内容を充実した事で、ホームページをきっかけに来館する利用者が増えた。(パパページ・区内のサロン・区内のサークル情報を掲載)
- ・拠点利用者と共ににこりんくマップを作成し、利用者の声を中心に公園やサロンの情報を集約しフロアに掲示した。
- ・幼稚園・保育園情報掲示スペースを作成し、未就園児情報が分かりやすいように整理した。
- ・利用者が主体となったイベント企画等の定期的実施や、サークル運営をサポートするため、拠点情報コーナーに養育者が自主作成ポスターを掲示できるコーナーを設けた。また、昼と夕の集いで直接周知を行う機会を設けた。その結果地域で活動する養育者も増え始め、情報の発信に積極的に関わられるようになってきた。

評価の理由(区)

- ・情報提供のできる機会の提案・調整を行うとともに、効果的な情報発信の方法等の助言も併せて行った。
- ・情報提供のための媒体を母親教室や両親教室、地域育児教室等で配付し、更に関係各所に配架した。
- ・にこにこマップの作成にあたっては、こども家庭支援課を始めとした庁内の各職種が協力して実施した。
- ・広報よこはま区版に、拠点や横浜子育てパートナーに関する記事を掲載する等、積極的な周知に努めた。

拠点事業としての成果と課題

- (成果)**
- ・拠点ホームページの充実を図ったことで、来館困難な利用者に対する情報発信が可能となり、幅広い層の区民へ周知する事ができたと考えている。また、子育て支援団体連絡会を定期的で開催することで、区内の子育てに関する有益な情報を収集しタイムリーに区民に還元する仕組みを構築した。
 - ・区民が手軽に幅広く情報収集ができるよう、ホームページをスマートフォン対応に刷新した。
- (課題)**
- ・互いの事業の見学会を行い、区民に対してより丁寧かつ適切な情報提供ができるよう努める。
 - ・タイムリーな子育て情報を拠点内で全てのスタッフが提供できるよう拠点内で共有する。

振り返りの視点

- ア 養育者や担い手が必要としている情報が何かをとらえ、区内の幅広い地域の子育てや子育て支援情報を収集・提供しているか。
- イ 来所が困難な養育者や担い手も含め、情報を入手しやすいよう、さまざまな媒体や拠点以外の場を通して情報発信しているか。
- ウ 利用者が情報を入手しやすく、自ら選べるひろば内の工夫をしているか。
- エ さまざまな子育て支援の場に出向いて収集した具体的な情報や、関係機関及びネットワークを通じて得た情報を養育者や担い手に提供しているか。
- オ 拠点の情報収集・提供機能を幅広く区民に周知しているか。
- カ 養育者や担い手から拠点に情報が届けられる仕組みや工夫があるか。
- キ 情報収集・提供の企画に養育者や担い手が関わる仕組みや工夫があるか。

【作業用シート(様式1 7事業相互評価)】

相互振り返り作業での意見交換内容

別紙参照

有識者との意見交換内容・コメント

4 ネットワーク事業

目指す拠点の姿	(参考)1期目振り返りの課題	自己評価(A~D)		
		法人	区	
①地域の子育て支援活動を活性化するためのネットワークを構築・推進している。	■拠点が地域の関係機関・団体と繋がる機会づくりはできたが、今後の具体的な日常的な活動や事業展開を進めるため、区と拠点の連携を図る。 ■各地区の子育て支援関係者・団体と更に交流を深め、子育て情報をより把握する必要がある。	A	A	
②ネットワークを活かして、拠点利用者を地域へつないでいる。		A	A	
☆さかえ次世代交流ステーションの一員として利用者と多様な青少年をつないでいる		B	B	
評価の理由(法人)				
(主なデータ) <各種会議への出席> ①栄区児童虐待防止連絡会(栄区要保護児童対策地域協議会) ②栄区自立支援協議会 ③栄区地域福祉保健計画推進会議 ④栄区セーフコミュニティ推進会議【※1】 a-児童虐待予防対策分科会(通称:さかえっ子の笑顔ひろげ隊)【※2】 b-こども安全対策分科会 ⑤その他ネットワーク会議(保育園、幼稚園園長会議、地域ケアプラザコーディネーター連絡会等) <事務局の運営> 栄区子育て支援団体連絡会の開催(令和元年度50団体登録)【※3】子育てつながるマップの作製【※4】 <その他> 次世代交流ステーションまつり、毎年9月開催。(平成30年度963名来場)				
【※1】 セーフコミュニティとは「致命的な事故やケガは、原因を究明することで予防ができる」という考えのもと、地域や関係機関、行政が一体となって地域ぐるみで安心・安全なまちづくりの活動を継続的に行っているまちに与えられる国際認証。栄区は平成25年10月5日に、セーフコミュニティの認証を取得。平成30年6月再認証内定。				
【※2】 栄区セーフコミュニティ児童虐待予防対策分科会の活動。地域に向けて「子育て世代を温かく見守る地域づくり」の啓発を実施。①地域における児童虐待防止の啓発や見守りの啓発 ②子育て相談先の周知 ③次世代(小中学生)が赤ちゃんと接する体験の場づくり ④養育者に対する地域とのつながりをもつ大切さの周知				
【※3】 拠点が事務局となり、地域で子育てに関わる人・関係機関同士の顔の見える関係づくりを目的とし、お互いの活動状況を共有することで区内の子育て支援の充実を目指す。参加団体:こども家庭支援課・主任児童委員連絡会・区社会福祉協議会・地域のサロン・親と子のつどいの広場・保育園・学齢期の支援団体・障害児の支援団体・地域ケアプラザ等、50団体が登録している。				
【※4】 子育て支援団体連絡会に加入する50団体が、互いの活動を知り、必要に応じて紹介したり、団体同士でも互いのできることを活かして協力し合えることが出来るようまとめた、情報ファイル。				
■平成30年度栄区地域子育て支援拠点にこりんく利用者アンケート				
「地域を身近に感じたり、地域の人と知り合える機会が増えましたか？」	そう思う	ややそう思う	そう思わない	無回答
	60%	29%	11%	
1【区内関係機関におけるネットワークの構築】 ・各種会議への出席及び子育て支援団体連絡会事務局の運営を通じ、従来にも増して関係機関連携が強化されたことで新規事業の計画・実施に結びつけることができた。 ①地域ケアプラザ(6か所)と連携し、拠点を利用していない養育者への取り組みとして平成26年から子育て応援講座を実施した。 ②区と連携し「さかえっ子の笑顔ひろげ隊」の活動や地域育児教室(7か所)へ参加した。 ・子育て支援団体連絡会事務局として連絡会を年間5回程度開催し、事務局で事前設定したテーマに応じた活発な意見交換を行うとともに、参加者にとって関心の高いテーマで研修を実施することができた。また、団体同士の交流も深めることができた。 ・地域福祉保健計画推進会議、施設間連携事業、自立支援協議会等に参加し、拠点の立場から意見具申を行った。 ・横浜市こども青少年局が主催する拠点連絡会に参加し、他区の取組等の情報収集に努め、拠点運営に活かすことができた。				
2【育まれたネットワークを活用した身近な地域の子育て支援の場へのつなぎ】 ・子育て支援団体連絡会にて支援者向けアンケートを実施し、地域の課題把握に努めた。子育てつながるマップを活用し、利用者をより身近な地域につなげることができた。【※4】 ・養育者が主体となり活動する機会を拠点内で設け、その結果養育者自身が自信をつけて活動を地域へ広げた。(音楽ボランティア・まもうたい隊・パパによるリミック等) ・区と共にサークルリーダー会を年間2回(研修・交流会)実施し、サークル活動のモチベーションを高めるきっかけとなった。結果、地域の仲間づくりの場となった。				
3【次世代交流ステーションの中核組織として拠点利用者を地域につなぐ】 ・運営法人(社会福祉法人地域サポート虹・社会福祉法人訪問の家)の協力のもと「次世代交流ステーションまつり」を毎年開催し地域に開かれた施設として認知されている。更に利用者がまつりの運営に参加することで利用者同士の関わり合いや、地域住民との交流を経験でき、親としての学びを得る機会を提供することができた。 ・中高生のボランティアや看護学生の実習を受け入れ、多様な青少年と利用者との交流を図った。また、ステーション内の他機関につなぎ、継続的な活動の場を提供した。 ・次世代交流ステーション運営協議会や、日常の活動の中でそれぞれの特性の理解を深め、必要に応じて互いの利用者を紹介したり、つなぎ合う関係性が構築できた。				

評価の理由(区)

- ・サークルリーダー研修会での子育て支援者や保育協力者の派遣を行うとともに、研修会の充実を図るための助言を適宜行うことでサークル活動支援に携わった。
- ・各種会議のメンバーに拠点を加えるよう調整するとともに継続的に参加できるよう後方支援を行った。

拠点事業としての成果と課題

(成果)

- ・子育て支援団体連絡会の事務局運営を担うことにより、拠点と地域の関係機関・団体とのつながりが育まれる等ネットワークの構築を推進した。

(課題)

- ・子育て支援団体連絡会で把握した情報を地域全体で十分に共有しているとは言い難く、また支援対象の幅が乳幼児から青少年期へと広がっているため、連絡会の運営に関して再考の余地がある。

振り返りの視点

ア 子育て家庭や地域の子育て支援関係者のニーズを踏まえ、連携促進に取り組んでいるか。

イ 地域の子育て支援関係者が、互いに知り合い、理解し、子育て家庭の状況及び子育て支援の情報や課題を共有するための場、機会をつくりだしているか。

ウ 地域の子育て支援関係者が協力し、支え合えるように、関係者同士をつないでいるか。

エ 養育者を身近な地域の子育て支援の場につなげているか。

オ 子育て支援活動に関心のある方を丁寧に受け止め、必要に応じて身近な地域の活動へつないでいるか。

【作業用シート(様式1 7事業相互評価)】

相互振り返り作業での意見交換内容

別紙参照

有識者との意見交換内容・コメント

5 人材育成・活動支援事業

目指す拠点の姿	(参考)1期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①地域の子育て支援活動を活性化するため、担い手を支えることができている。	<ul style="list-style-type: none"> ■子育ての当事者がより主体的に活動に参加できるよう支援する。 ■子育て支援に関心を持つ人を新たに増やすための工夫・取り組みを行う。 ■既に活動している子育て支援者対象に講座を開催し、スキルアップに努める。 	A	A
②養育者に対して地域活動の大切さを伝えるとともに、地域の子育て支援活動に関心のある人が、活動に参加するきっかけを作っている。		B	A
③広く市民に対して、子育て家庭を温かく見守る地域全体での雰囲気づくりに取り組んでいる。		A	A
④これから子育て当事者となる市民に対して、子育てについて考え、学び合えるように働きかけている。		B	B
評価の理由(法人)			
<p>(主なデータ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊田地区子育てサロンの立ち上げサポート(平成26年度から平成28年度) ・サロン、ひろばへの出張 ・地域の子育て支援者向けの研修「子育て支援者のマインド&スキル」「救急救命法」等 子育て支援団体連絡会の開催(年間5回程度・研修含む) ・小、中、高、大学実習生等、ボランティア受け入れ(平成30年度小学生32名・中学生13名・高校生25名・大学生8名) 専門学生1名・関係機関・団体等9名) ・父親参加型プログラム「パパたち集まれ(年間5回)」の開催 実績:第1回「スタンプラリー」5/19 7組21名 父7名 第2回「ダンボールハウス製作」6/16 11組30名 父8名 第3回「パパ講座・読絵ん会」9/29 14組40名 父14名 第4回「ブラレールで遊ぼう」11/17 8組24名 父12名 第5回「記念手形&サーキットあそび」3/16 10組30名 父10名 ・「抱っこパパ隊」の立ち上げ(平成29年度開始)実績:年間15回 90組 ・パパママ一緒にふれあい遊び 年間4回 87組207名 ＜ステージ発表＞ステーションまつり舞台・にこりんく虹のふれあいコンサート(栄公会堂)・パパママ一緒にふれあい遊び・豆まき 			
<p>1【子育て当事者、地域のグループ・団体等、様々な人材を地域につなげ、地域活動の活性化を図った】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援団体連絡会の事務局として区内の子育て支援関係団体の取り組みを「子育てつながるマップ」にまとめ各団体同士をつなげることができた。 ・子育て支援団体連絡会ではお互いの活動を知ることで地域活動の活性化につながった。 ・地域で活動している団体(読み聞かせ団体、おもちゃの修理団体、コーラス団体)の活動を発表する機会を設けた。 ・にこりんくの活動から立ち上がったサークル(まもうたい隊)や子育て当事者主体の活動(読み聞かせボランティア パパによるリトミック等)を発表する機会を設けたことにより、拠点内での活動から当事者同士が共に地域で活動を行なうことにつながった。 			
<p>2【新たな人材を育成するための定期的な取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな担い手を発掘、育成する取り組みとして①孫育て講座(祖父母向け)②父親向けプログラム③青少年地域活動拠点との連携④利用者ボランティア活動(読み聞かせ、リトミック等)⑤まもうたい隊発表(各地域ケアプラザ子育て講座での発表、こんにちは赤ちゃん訪問員定例会での発表)を行った。 ・区と協働で、サークル支援事業を実施し、サークルリーダーのための研修では育児サークルの大切さを伝え、継続的に活動できるようサポートした。 			
<p>3【子育て支援に関わる者同士の交流の推進及びスキルアップのための研修会の企画運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタッフのスキルアップのため、勉強会や研修会を定期的に開催した。こども青少年局等の外部研修も積極的に活用し伝達講習を丁寧に行うことで全てのスタッフに新たな知見を付与することができた。 ①個人情報守秘義務について②こどもの遊び、環境設定の工夫について ③こども青少年局支援関係者研修「相談対応の基本～エンパワメント～」 ④療育セミナー「療育センターの役割と気になる子どもの対応について」等 ・区と協働でサークルリーダー研修を実施した。 ・子育て支援者向けの研修を企画実施した。(「乳幼児救急救命法講座」、「横浜市における児童虐待の現状について」、「横浜市の子育てを取り巻く現状・地域で必要とされている支援について」) ・平成30年度より子育て支援団体連絡会で分科会を立ち上げ(障害、乳幼児、青少年)分科会活動の取り組みとして専門的な研修を企画開催している。 			
<p>4【小学生から大学院生を対象とした乳幼児親子との触れ合い体験機会の創出】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拠点において活動する学生ボランティアの受け入れを積極的に行い、乳幼児と触れ合うことで子育てに興味を持てるよう働きかけた。 ・青少年の地域活動拠点と連携し、子育て中の養育者や乳幼児と触れ合う体験や、学びの場を提供した。 ・区内中学校に拠点内ボランティア受け入れのチラシを配架した。 			
<p>5【地域住民に子育て世帯を温かく見守る啓発活動を行った(さかえっ子の笑顔ひろげ隊の活動)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏休みを利用した中学生と赤ちゃんとの触れ合い体験の場を提供した。 ・区内モデル中学校(2校)の3年生を対象に「いのちの授業」を行い、赤ちゃんとの触れ合い体験や保健師からの講義を通して青少年は命の大切さや子育てへの関心を持つきっかけとなった。講師となり参加した親は、青少年の育ちに接することで、親子が地域の一員として成長していくことをイメージする機会を得ることができた。また、中学生に対し、子育てについて語ることで、親自身の自己肯定感を高め、親として成長する場ともなった。 			

様式1-5 地域子育て支援拠点事業評価シート

評価の理由(区)

- ・区内中学校で実施する「いのちの授業」における「赤ちゃんふれあい体験」に拠点利用者がボランティアとして参加できるよう拠点と学校間の相互調整を行った。中学生と拠点利用者である養育者が交流を深めることによって命の大切さを学ぶのみならず、子育て家庭を温かく見守る地域力の醸成に加え、今後子育て当事者となる子どもたちが子育てについて考え、学び合える機会の創出に寄与することができた。
- ・拠点スタッフのスキルアップのため、研修講師の選定及び関係機関との調整を行った。
- ・区内で活動するサークル(全9サークル)に対し、活動の後方支援を行なった。(令和元年7月現在)

拠点事業としての成果と課題

(成果)

- ・父親の拠点来館者数が増加したことにより、父親の育児参加意識の向上、父親同士の交流、父親が主体となった活動の活発化に結び付けることができた。
- ・地域の既存のネットワークや横浜子育てサポートシステム等を活用し、新たな担い手の発掘及び育成を充実させた。
- ・拠点のネットワークを生かした人材育成の取り組みにより、中学校や地域の学生など様々な組織や世代と新たなつながりを持つことができた。
- ・定期的な勉強会や研修会の開催に加え、外部研修にも積極的に参加することで最新の知見をスタッフ間で共有する等、自己研鑽に努めた。

(課題)

- ・現段階では地域に十分なサポートを提供できるだけの担い手数が確保されているとは言い難いことから、引き続き担い手の発掘育成にむけての検討が必要である。
- ・個人ボランティアのさらなる受け入れや活動の場の提供については、拠点内基準をもとに進めていく。

振り返りの視点

- ア 子育て家庭や担い手のニーズを踏まえ、活動意欲の向上やスキルアップにつながる取組がなされているか。
- イ 地域の子育て支援活動がより充実されるよう、必要に応じて新たな活動希望者を結び付けているか。
- ウ 新たな担い手を発掘・養成する取組がなされているか。
- エ 活動希望を丁寧に受け止め、拠点内の活動や身近な子育て支援活動等に結び付けているか。
- オ 養育者が地域を身近に感じ、地域の活動に関心を持てるように働きかけているか。
- カ 地域で子育て支援に関わる人が増えているか。
- キ 子育ての現状や子育て支援の必要性を周知・啓発しているか。
- ク 子育て家庭(妊娠期の方を含む)を温かく見る気持ちを持つことができるように働きかけているか。
- ケ これから子育て当事者となる市民と子育て中の親子がふれあい、学び合う機会や場を作っているか。

【作業用シート(様式1 7事業相互評価)】

相互振り返り作業での意見交換内容

別紙参照

有識者との意見交換内容・コメント

6 横浜子育てサポートシステム区支部事務局運営事業

目指す拠点の姿	自己評価(A~D)	
	法人	区
①子育てサポートシステムに、多くの区民の参画が得られている。	B	B
②養育者にとって、必要な時に利用しやすい事業となっている。	A	B
③会員が地域の支え合いの良さ、大切さを理解しながら、利用や活動を継続できるように、支えることが出来ている。	A	A
④養育者の利用相談内容に応じて、子育て相談や他機関等の情報を提供し、必要な支援につなげている。	A	A

評価の理由(法人)

(主なデータ)

子育てサポートシステム登録会員数(平成27年度10月区社会福祉協議会より移管)

■会員数	利用会員	提供会員	両方会員	合計
平成26年度	55人	18人	5人	78人
平成29年度	215人	45人	10人	270人
平成30年度	251人	55人	13人	319人
■新規登録	利用会員	提供会員	両方会員	合計
平成26年度	11人	0人	3人	14人
平成29年度	79人	5人	2人	86人
平成30年度	101人	13人	4人	118人

■活動	件数
平成26年度	917件
平成27年度	596件
平成28年度	861件
平成29年度	627件
平成30年度	1193件

1【拠点のネットワーク機能を活かした栄区全域への周知】

- ・横浜子育てサポートシステムのコーディネーターとひろばスタッフが連携し、システムの周知や情報提供に努めた。(新規登録や相談時等)
- ・拠点のネットワークを活用し、各関係機関・団体(地域ケアプラザ、地区センター、幼稚園、保育園等)に幅広く周知した。
- ・提供会員数の拡大のため、児が就園したり、保育士資格を持つ母親達や、地域のボランティアの方等に直接拠点ひろばで働きかけた。
- ・子育て講座、回覧板、地域の祭りや子育て関連のイベント等でチラシを配布し、子育て経験のある40代、50代の提供会員登録につながった。
- ・拠点に来館しにくい地域には、出張説明会を開催し会員登録につながった。出張説明会チラシを回覧板にて周知したことで、より多くの区民が知る機会となった。しかし、提供会員の登録は地域により偏りがある。

2【養育者が活用しやすい、きめ細やかな利用調整】

- ・入会説明会にて、実際の活動例等を挙げ、分かりやすい説明を行った。不安や質問に対しては個別対応し、円滑な利用につなげた。
- ・利用・提供会員双方が利用しやすいように、依頼内容を丁寧に傾聴し、コーディネーター間で活動の細部を想定した上で事前打ち合わせを行った。
- ・提供会員には利用会員の希望する子どもへの対応方法等を活動依頼時や、事前打合せ時に丁寧に伝え、会員同士、活動内容に対する考えの違いがないよう努めた。

3【提供会員・利用会員それぞれがシステムを理解し、安心して利用・活動ができる取り組み】

- ・利用・活動継続のため、会員が拠点に来館する機会をとらえ活動状況を聞き取り、必要に応じてフォローした。
- ・活動経験のない(新規の)提供会員には拠点のひろばでの保育を依頼し、今後の活動につなげることができた。
- ・活動中の提供会員の希望に応じて研修情報を提供し活動の不安の軽減に努めた。
- ・友達同士が子どもを預け合う際にも横浜子育てサポートシステムを利用できることを、ひろばの情報コーナーにて周知し、両方会員の登録促進を行った。

4【養育者のニーズに応じた支援】

- ・相談対応にあたっては、柔軟な視野を持ち、様々な選択肢の中から、親子にとって最善のサポートができるように努めた。
- ・横浜子育てサポートシステムでは対応できない病児保育や家事支援など相談があった場合は、利用者支援事業と連携を図り、相談に合った情報提供を行った。
- ・利用者支援事業から預かりや送迎の相談を受けた際、横浜子育てサポートシステムのコーディネーターにつなげる等、拠点全体として対応した。

様式1-6 地域子育て支援拠点事業評価シート

評価の理由(区)

- ・母子訪問や乳幼児健診、地域育児教室、こんにちは赤ちゃん訪問員定例会や子育て支援団体連絡会等の場を利用して周知を行い、利用会員の増加につなげた。提供会員増加のための周知が不足しており、今後拡大していく必要がある。
- ・養育者の体調不良や介護等、予期せぬ事態が発生し、一時預かりの相談が入ることが多い。いざという時に、タイムリーに利用できるような様々な機会を捉え事前登録の必要性を説明し、拠点で開催している出張説明会等につないでいく。

拠点事業としての成果と課題

(成果)

- ・拠点に移管されたことにより、拠点利用者の相談から活動につながったことや、拠点ネットワークを活かし区全域に周知が行うことができた。
- ・利用者支援事業と連携を取り、相談に合った情報提供を行うことができた。

(課題)

- ・区全域に子育てサポートシステムの周知に努めたが、提供会員の登録は地域によって偏りがある。提供会員の少ない地域での出張説明会を積極的に実施し会員の確保に努めていく。また、区の関係機関や団体、小学校に対して周知活動を引き続き行っていく。

振り返りの視点

- ア 区民に対して、子育てサポートシステムについての周知活動を行っているか。
- イ 提供会員数拡大に向けた取組がなされているか。
- ウ 養育者に対して、必要時に利用相談しやすく感じられるような周知活動等の工夫をしているか。
- エ 会員が相互の合意のもとに気持ちよく安全に活動できるよう、会員の状況に応じた活動方法の提案や、丁寧なコーディネートができているか。
- オ 会員の声の把握に努め、必要に応じて活動内容の調整や会員のフォロー、追加のコーディネート等を行っているか。
- カ 提供・両方会員が活動の意義を感じながら、安心・安全な活動を継続して行えるよう、研修会等の取組がなされているか。
- キ 会員の活動意欲を高めるため、会員間の交流をはかる取組がなされているか。
- ク 就労に関する以外の養育者のリフレッシュ等の理由での利用を促進する取組がなされているか。
- ケ 会員間で授受される個人情報会員が適正に取り扱うことが出来るよう、注意喚起や研修等の取組がなされているか。
- コ 援助活動の調整等を通して把握した子育てに関するニーズを、必要な支援や新たな事業、事業の見直しにつなげているか。
- サ 専門的対応が必要と考えられる相談について、こども家庭支援課との連携、連絡体制のもと、適切に対応しているか。
- シ 子育てサポートシステム以外の子育てに関する相談に対して、情報提供等の支援ができているか。

【作業用シート(様式1 6事業相互評価)】

相互振り返り作業での意見交換内容

※別紙参照

有識者との意見交換内容・コメント

7 利用者支援事業

目指す拠点の姿					自己評価(A~D)	
					法人	区
①拠点における利用者支援事業が、区民に認知されている。					B	B
②個別相談に応じ、適した選択肢の提示や養育者主体の選択の支援、必要に応じた支援窓口等の案内や仲介を行っている。					A	A
③子育て家庭を支えるためのネットワークの一員として、包括的な視点を持って子ども子育て支援に関する関係機関や地域の社会資源との協働の関係づくりを行っている。					B	B
評価の理由(法人)						
(主なデータ)						
■事業説明・周知	28年度	29年度	30年度	合計		
回数	22回	43回	15回	80回		
<ul style="list-style-type: none"> 区内関係機関、団体(子育て支援者定例会、こんにちは赤ちゃん訪問員定例会、自立支援協議会、地域ケアプラザコーディネーター会議、幼稚園園長会議、社会福祉協議会等) 子育て支援団体連絡会(令和元年度50団体登録) 区と協働 さかえっ子の笑顔ひろげ隊 虐待防止と相談先の周知活動として 区民まつりや地域のイベントで啓発活動チラシ配布(平成28年度1,703枚 平成29年度1,598枚 平成30年度1,739枚) 拠点で新規登録時や昼と夕の集いの時間に周知 						
■30年度相談	居場所	相談室	電話	出張	合計	
件数	212件	59件	22件	50件	343件	
■訪問・出張相談	28年度	29年度	30年度	平成30年度 親と子のつどいの広場(区内2か所)、子育て支援者会場 48回 育児教室子育てサロン、当事者サークル、子どもカフェ等		
回数	10回	22回	48回			
■研修	28年度	29年度	30年度	■地域との連携 30年度 36回		
件数	14回	20回	23回	(当事者の親の会、ひとり親サポート横浜、公立保育園、中学校等)		
■平成30年度栄区地域子育て支援拠点にこりんく利用者アンケート					はい	いいえ
「横浜子育てパートナーをご存知ですか」					58%	42%
「はい」と答えた方は、電話で相談できるをご存知ですか」					37%	63%
1【区民や子育て支援関係者に対する利用者支援事業の周知活動の充実】						
<ul style="list-style-type: none"> 子育て支援関係者に会議等で事業説明を行った。こんにちは赤ちゃん訪問員の定例会や、自立支援協議会にて取り組みを発表し、養育者の相談先として周知の協力を得た。 各関係機関団体等に名刺型チラシの設置協力を得た(地域ケアプラザ・社会福祉協議会・親と子のつどいの広場) 						
2【丁寧な個別相談による適切な支援】						
<ul style="list-style-type: none"> 丁寧な個別相談に応じたことで継続相談につながった。長期的に養育者の相談に応じ、信頼関係を築くことで適切な情報提供や支援につなげることができた。 発達の相談では、遊びの場面の見守りを行い、親の悩みや気づきに寄り添いながら、必要なタイミングで区につなげることができた。 相談から把握した養育者の共通の悩みやニーズに対して、ひとり親の会やアレルギーを持つ子のママの会、プチおやこあそび(集団遊びが苦手な子を対象にした少人数のおやこ遊び)等を開催した。30年度は発達障害について発達障害児者親の会当事者による講座を開催。講座開催日含め年間3回、休館日に臨時開館し、拠点に来館しづらい親子が利用しやすい環境を整えた。 相談内容や対応方法について困った時には区を通して地域療育センターに相談し、助言を受け環境整備を行った。 ひとり親の会ではひとり親サポートよこはまや男女共同参画センターの職員に講師やアドバイザーとして参加依頼し、より充実した情報提供を行うことができた。 						
3【地域の子育て支援関係者と連携した協働の関係づくり】						
<ul style="list-style-type: none"> 拠点のネットワーク(子育て支援団体連絡会等)を活用し、地域の子育て支援団体の取り組みを理解し、親子にとってより身近な地域の社会資源につなげることができた。地域のサロンや地域ケアプラザに出向き、情報交換や出張相談を行った。 子育て支援団体連絡会で地域のサロンとつながりができたことで、サロンから依頼があり、その地区の特徴に応じた講演を行い、養育者の不安軽減につながるような取り組みを行った。 利用者支援事業の周知活動等を通じて、地域の関係機関(ひとり親サポート横浜、保育・教育コンシェルジュ男女共同参画センター)や当事者サークル団体(発達障害児者親の会、ダウン症児親の会等)と連携し、関係性を深め、利用者のニーズに応じて講座等を開催した。 						

様式1-7 地域子育て支援拠点事業評価シート

<ul style="list-style-type: none">・両親教室や地域育児教室、こんにちは赤ちゃん訪問員定例会等を横浜子育てパートナーの周知の場として提供した。今後は更に周知先を拡大していくとともに、拠点に来館しづらい養育者に対し、電話相談が可能なことについて周知を行っていく。・横浜子育てパートナーが関係機関とつながる機会の場を提供し、協働の関係づくりの促進を図った。・地域療育センターとの連絡の調整を行い、研修会につなげる事ができた。
--

拠点事業としての成果と課題

(成果)

- ・相談者に対し、丁寧な個別相談に応じ、区や拠点内外の支援、社会資源につなげることができた。地域のネットワークの一員として地域の子育て支援者に事業の内容を周知することができた。
- ・拠点事業で培った地域とのネットワークをもとに利用者のニーズに応える講座や集まりを行うことができた。
- ・研修等を通じて、対応の困難な相談者への見識を得る事ができ、伝達研修等で拠点職員と共有する事ができた。

(課題)

- ・拠点で相談ができることは認知されているが、横浜子育てパートナーの名称や電話相談の認知度が不十分であると考え。拠点に来館しなくても電話相談ができる事を周知していく必要がある。

振り返りの視点

- ア 利用者支援事業を幅広く区民に周知しているか。
- イ 養育者に対して、気軽に相談しやすい仕組みづくりや工夫をしているか。
- ウ 常に最新の情報を収集し、提供しやすく整理しているか。
- エ どのような相談に対しても、相手に寄り添い傾聴し、養育者の主体性を尊重した相談対応を行っているか。
- オ 関係機関等への案内・仲介する場合、先方へ事前に連絡するなど、円滑かつ確実に利用できるような支援をしているか。
- カ 関係機関へ案内・仲介した後も、役割分担に応じて継続的な関わりをもっているか。
- キ 相談の対応状況や支援策の適切さ、拠点内外での連携状況等について、多角的な視点から振り返りや検討を行っているか。
- ク 拠点のネットワークを活用し、関係機関や地域の社会資源(インフォーマルを含む)との間で、利用者支援に関連する情報の共有や関係性の強化を図っているか。
- ケ 専門的な対応を要する相談については、内容に応じて速やかに関係機関に案内・仲介する等、適切な対応を行っているか。
- コ 把握した課題を関係機関等と共有し、拠点事業の充実や、必要な支援の調整や見直し、不足する資源の調整や提案につなげているか。

【作業用シート(様式1 7事業相互評価)】

相互振り返り作業での意見交換内容

※別紙参照

有識者との意見交換内容・コメント